

貴族好みの優美な忿怒像

- 『同聚院』にある俗に「じゅうまん不動」と称される『不動明王坐像』は、火除けなどの靈験あらたかな寺院として信仰を集めている。「じゅうまん」とは「十」と「万」を一字にしたものといわれ、毎年二月二日にこの字を記した護符が施与され、東福寺の塔頭の一つである。そこは、もともと藤原氏ゆかりの地であり、藤原道長が建立した五大堂に祀られた中尊が本像で、重要文化財に指定され、平安時代(十一世紀)に造られた檜材 通称一木造、彩色、彫眼、265.1cm 像高の坐像である。近寄って正面や側面を拝すると、その威容に圧倒される。
- その怒った中に、おおらかなで、繊細な彫刻は平安時代特有のものであろうか、東寺・不動明王坐像より大きい丈六の明王像として貴重である。この像は、東寺のそれと基本的な形は同じ、髪を左に琉(くしげず)って弁髪を束ね、両眼を見開いて上歯で下唇を噛む。しかし、東寺像が顔を少し右に向けるのに対し、同聚院像はまっすぐ正面を向き、前方に強い視線を注ぐ。顔つきは円やかで、その中心寄りに両眼、唇が集中するため、忿怒相ながらおおらかな印象である。作者は、当時の代表的仏師で、道長の造仏にもかかわった「康尚」と考えられている。
- 当時、貴族による造寺造仏の盛行があった。それに拍車をかけたのが、当時高まりつつあった浄土信仰である。この世は穢土、つまり汚れた地とし、このままでは救いが得られないとする。そこで来世に阿弥陀如来の極楽浄土に往生、つまり生まれ変わることを勧める。その往生を確実に遂げるためには現世で多くの善根を積まなければならない。その一つが造寺造仏であった。貴族たちは自邸に阿弥陀堂を建て、日夜仏像を拝し、極楽往生の時に備えた。こうした造仏の流行の中で、康尚は多くの造仏を手がけたが、そこには貴族の厳しい鑑賞眼も注がれた。
- そうした中で、明るく、洗練された、新たな仏像の形がみられる。顔は丸みを増し、忿怒像にもかかわらず、優美でさえある。体も重々しい充実感から解放され、膨張するような軽快な姿。これを造形的に分析すると、四角い彫刻から丸い彫刻への進化といえよう。十世紀の仏像は、顔も体も丸みがなく、角材の角を丸めたような感じである。そのため、正面観は平面的であっても側面に木材の厚みが残り、それが像に重厚感を与えていた。
- 同寺の不動明王坐像には、角ばった部分はない。顔は球状で、体の断面も楕円形をなす。それは、康尚が貴族らの高い鑑賞眼に磨かれながら造り上げた新たな仏像の形であった。しかし、そこにはまだ旧時代的な体質も残されている。それが衣の衣文である。しかし前時代の翻波式衣文の要素と木寄せ構造が残っている。
- 当時、仏像の表現だけでなく、構造、技法の面でも大きな変革が進行しつつあった。寄木造りである。寄木造りは、仏像の主要部を一材で造る一木造りに対して、二材以上の木材を組んで造るものである。ただ、寄木造りの最大の効果は、太い木材が入手困難でも、細い木材を束ねて大きな像を造れることである。飛鳥時代以来、巨大な寺院が次々に建てられ、奈良、京都周辺の森林から巨樹が消えつつあった。平安時代の盛んな造仏活動にとって、寄木造りの開発は、まさに救世主であった。しかし旧来の、一本の樹木に仏の姿を重ね、生きた仏を創り出そうという考え方から、仏性、つまり、仏の魂を造形しがたいものとし、その入れ物としての仏像を造ることへの変化といえる。仏像を造る木材を「御衣木(みそぎ)」というが、それは仏像そのものでなく、仏像の衣を造ることのことである。仏師が造りうるのは仏そのものでなく、仏性を入れるための仏の形をした容器だといったらいいかもしれない。そこに仏の魂を込めるのは開眼導師の役割といえよう。寄木造りの技法が実現されたことの根底に、このような仏像観の変化があったと思われる。
- ところで、同寺の不動明王像では、一木造りのための十分な太さの木材が用意されていない。そこで彼は本来の寄木造りとも異なる独自の工夫により、丈六の巨像を造ることに成功している。では、それはどんな方法だったか。同聚院像は、一本の角材を主材としながら、その両側に別材を当て、さらに背面にも前後二材、左右二材の木材を寄せている。主材の分量は、上半身の全体の二分の一に満たない。あたかも、木造建築の大黒柱のようだ。そこに仏の魂を籠めようとしたのかもしれない。ここに寄木造りの技術を知りつつも、一方で、一木造りへのこだわりがまだ残っているといえないだろうか。仏像が、表現、技法の両面で真に新たな局面に達するのは、彼の息子の定朝まで待たなければならない。当寺の不動明王坐像を拝していると、まだ完全に解放されたとはいえない重々しさがほんの少し残っているように感じられる。それが、康尚の、また時代の限界といえるかもしれない。しかし、かえってそこに、新しい仏像の姿を求め続けた康尚の努力の跡が読み取れる。